

私たちの住んでいる生活環境は、必ずしも生活に快適な条件ばかりがそろっているわけではなく、遠い昔から長い年月をかけて、自然のきびしい悪条件を少しずつ改善しながら、現在の生活環境をつくり出して来たものである。その不断の努力は、衆知と総力を結集した共同の努力であり、そこには共同保健計画の原始的な姿が見られる。私たちは、この父祖の努力を受け継ぎ、さらに効果的に環境衛生を改善して行かなければならぬ。

環境衛生の問題は、先ず飲食物の衛生からはじまる。私たちは不慮の事故を起こさないように、飲食物を細菌や毒物による汚染から絶えずまもらなければならぬ。国民の経済が上昇し、食品保存技術の向上につれて、食品の衛生的な管理は、飛躍的に向上してきた。その反面、人口の都市集中は強くなり、し尿の肥料価値は化学肥料の量産によって激減してきたために、水の汚染は年々ひどくなる一方である。それで、私たちの飲料水は、深い岩層の下の地下水でないかぎり、消毒せずに生水を飲むことは危険と思わなければならない。とくに、市街地やその周辺の井戸は汚染がひどく、今年の赤痢多発はこれが原因となっている。この点、水道についても同様であり、規定の塩素滅菌は、寸時もこれを中断してはならない。水道の管理徹底こそ、保健活動の第一歩である。

私たちの住生活と不可分の関係にある、下水や塵とかし尿の処理については、施設費の面で市町村により、整備状況に格差を生ずることはやむを得ない。しかし、下水整備やし尿処理場、塵芥熱却場設置の努力を怠ってはならない。住民も自宅周囲の下水整備や塵芥の処分については十分に注意して、つとめて環境を清潔にする心がけが必要である。汚れて悪臭を放つ坪井川や、空地に見られるゴミの山は、私たち住民の不注意の堆積

ハエやカの駆除についても、これには、少なくとも部落ぐるみ一斉に行わなければならない。部落内でよく計画をねり、各戸同時に徹底的に実施せねばならず、かなり専門的技術が要るので、指導が必要である。ここで注意しておきたいことは、ハエの駆除を消毒という人が多いことである。消毒は病原菌を殺すことであって、駆除をいくら撒いてもそれだけでは赤痢の予防にはならない。ハエの駆除は、一般の人に消毒

ところが、県内の予防接種率は良いとはいえない。予防接種は個人個人の予防という価値だけでなく、全員接種することによって、伝染病そのものを自分たちの地区から駆逐することができるのである。定められた予防接種を受けないことは、単に自分一人の怠慢だけでなく、地区住民に迷惑をかけていることを知らねばならない。この点、現在特別な対策として行なわれるインフルエンザの予防接種についてもいえる。しかし、日本脳炎の予防接種は個人の予防だけで、集団防衛の意味はない。

## 環境衛生と共同保健計画

ではないだろうか。

各地の共同保健計画会議で、いつも問題になるのは、し尿の不法投棄と野犬の問題である。不法投棄を見逃さず、目撃者がどしどし保健所に届けてくれればよいが、会議の席で莫然とした話を聞くだけでは取締りのしようもない。野犬の問題も、多くは飼主のある未登録犬であり、不法投棄の防止にしろ、野犬処分にしろ、住民と当局者との密接な協力がなにかぎり、それらの解決は不可能である。

ずみの誤った安心感を与えることになり、赤痢予防について誤解を生じている。カの駆除は、夏の宵を楽しくするだけでなく、日本脳炎の予防になる。しかし、稲作本位のわが国では、下水や水溜りの処分とか薬剤散布だけでは、日本脳炎の発生を阻止することはできない。

こんどは予防接種である。予防接種のうち種痘、腸チフス、パラチフス、百日咳、チフテリア、小児まひの五種類は、市町村長が期日を指定して、該当者は全員受けるように、義務づけられている。

最後に伝染病予防である。前に述べた五種類の伝染病は、予防接種によって防ぐことができる。県内にチフテリアが散発する町村があるが、予防接種の不徹底を責めねばならない。年々赤痢患者が多くなっている。水の汚染が原因であることは、最初の説明で納得される。調理を担当する一家の主婦は、家庭の飲食物を汚染しないよう十分に注意しなければならない。調理前に十分に手を洗い、食品を消毒もしない井戸水で洗ったまま食卓にのせることは注意しなければならない。

以上、環境衛生についての問題を並べたが、町ぐるみの共同保健計画の素材として、取り上げられ、その徹底を期してもらいたいと思う。

## ※ 人口動態年度別推移

区分	人口	出生		死亡		自然増加		乳児死亡		新生児死亡		死産				
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	自然死産実数	率	人工死産実数	率	
35	全国	93,413,000	1,602,933	17.2	703,309	7.5	893,654	9.6	49,275	30.7	27,339	17.1	93,237	52.3	85,235	43.2
	熊本県	1,856,000	33,231	17.9	13,978	8.6	17,303	9.3	1,178	35.4	669	21.1	1,742	47.2	1,859	50.4
36	全国	93,413,000	1,586,413	16.8	695,374	7.4	891,039	9.5	45,443	23.6	25,242	16.5	95,880	54.3	83,223	47.5
	熊本県	1,856,000	31,552	17.2	15,158	8.3	16,384	8.9	981	31.1	606	19.2	1,692	43.3	1,807	51.6
37	全国	93,413,000	1,616,005	17.0	710,022	7.5	905,933	9.5	42,784	23.5	24,786	15.3	97,043	54.1	80,073	44.7
	熊本県	1,856,000	30,509	16.8	15,543	8.5	14,956	8.2	959	31.4	27	21.6	1,617	47.9	1,597	47.4
38	全国	93,413,000	1,657,402	17.2	670,553	7.0	936,849	10.3	38,423	23.2	22,951	13.8	97,551	53.2	77,696	42.4
	熊本県	1,856,000	30,000	16.6	14,925	8.3	15,075	8.4	877	29.2	565	13.8	1,643	49.7	1,411	42.7
39	全国	93,413,000	1,914,709	17.6	672,860	6.9	1,041,849	10.7	34,950	20.4	21,326	12.4	97,157	51.6	70,660	37.5
	熊本県	1,856,000	22,693	16.6	14,557	8.1	15,136	8.5	752	23.3	493	16.6	1,498	46.1	1,302	40.1
40	全国	93,274,961	1,821,841	18.5	700,237	7.1	1,121,604	11.4	33,737	18.5	21,257	11.7	94,290	47.5	67,129	33.8
	熊本県	1,770,736	29,940	16.9	15,222	8.6	14,713	8.3	696	23.2	451	15.1	1,539	46.9	1,317	40.2

※ 率は人口 1,000 対